

令和5年
伊豆市議会6月定例会

一般質問

令和5年6月

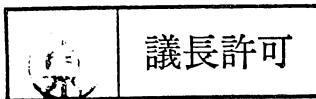
令和5年伊豆市議会6月定例会一般質問者と質問事項

5月31日(水) 午前9時30分～

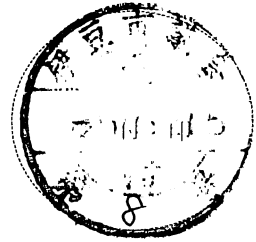
発言 順序	議席番号. 氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1	9. 鈴木 正人	1 伊豆市公共施設再配置計画の推進状況	市 長	1
		2 マンション管理適正化推進計画の策定と認定制度		2
2	10. 間野 みどり	1 保育士を取り巻く保育士の現状について	市 長	4
		2 SDGsの教育現場の取り組みについて	教育長	5
3	16. 杉山 誠	1 不登校の児童生徒への支援	教育長	7
		2 デジタル技術で人命を守る「防災DX」の推進について	市 長	8
4	2. 浅田 藤二	1 自主避難所の整備について	市 長	9
		2 新中学校の教育の内容(教育課程)について	教育長	10
5	12. 小長谷 順二	1 自治体DXの推進について	市 長 教育長	12
		2 子ども・子育て支援の推進について		13

6月1日(木) 午前9時30分～

発言 順序	議席番号. 氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
6	5. 黒須 淳美	1 地域づくり協議会の検証と今後の方向性について	市 長	14
7	4. 飯田 大	1 市内こども園、小中学校の給食について(子育て世代が給食に期待する事項)	市 長 教育長	16
8	1. 小川 多美子	1 小さな背中に重いランドセル!	教育長	17
		2 放課後児童クラブについて		18
		3 オーラルフレイル(口の健康)について	市 長	19
9	14. 三田 忠男	1 伊豆市の介護・福祉・医療は持続可能な現状ですか	市 長 教育長	21
10	6. 下山 祥二	1 市民の安全安心を担保する行政の役割	市 長 教育長	22



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5 年 5 月 15 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 9 議員名 鈴木 正 人

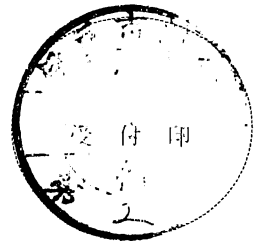
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 <u>分割</u>) ※発言予定時間 (20分 <u>30分</u>) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	求 め る 者
1.伊豆市公共施設再配置計画の推進状況	<p>令和5年3月に策定された「伊豆市公共施設再配置計画」では、その目的として、「施設の老朽化の進行、人口減少社会の到来、厳しい財政状況、大規模災害への対応など様々な課題が顕在化している状況のもと、本市の公共施設等が安全で持続的な公共サービスを提供していくためには、時代や社会情勢の変化に対応しつつ、効率的・効果的な公共施設等の維持管理及び運営に努める必要がある。」としています。</p> <p>その為、平成28年度に策定した「総合管理計画」において、公共施設等の「量」、「質」、「コスト」の最適化に取り組む基本的な方針を示し、持続可能な公共サービスの実現に向けて、今後40年間で本市の公共施設保有量(延床面積)を40~57%の範囲内で削減することを目標として示し、さらに、平成30年度に策定した「伊豆市公共施設再配置基本方針」等に基づき、「直近10年間(2021~2030年度)」の年次計画(ロードマップ)を定め、施設保有量の目標値に向けた取組みとして、本計画を位置付けています。</p> <p>これらを踏まえて、以下伺います。</p> <p>① 以下の施設等について、再配置の実行計画(ロードマップ)の現在の進捗状況、または今後の見通し等についてお示し願います。</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>2. マンション管理 適正化推進計画の 策定と認定制度</p>	<p>ア)湯の国会館：令和4年度～6年度に民営化に向けた 検討、令和7年度に譲渡（民営化）するとして計画 について</p> <p>イ)天城会館：令和4年度～6年度に民営化に向けた 検討、令和7年度に譲渡（民営化）するとして計画 について</p> <p>ウ)修善寺老人憩いの家：令和3年度に浴室休止、 令和4年度～6年度に今後のあり方検討とした計画 について</p> <p>エ)市役所本庁および別館：令和3年度～5年度に 今後のあり方検討とした計画について</p> <p>② 本計画 第3章に示された「5つ」の骨太の方針の内、 「5. 積極的な借地の解消」の取組み状況または 課題等について伺います。</p> <p>③ 平成30年2月に民間事業者と締結した「覚書」に 基づく「旧天城湯ヶ島支所等の施設全体の売却に 向けた協議」の経緯と現状について説明願います。</p> <p>マンション管理が適正に行なわれるような仕組みを 法律で定め、住人全員でマンションの資産価値を守り、快 適な住環境を確保することを目的として、2001年8月に 「マンションの管理の適正化の推進に関する法律（以下 適正化法という）」が施行、さらに2022年4月に、改正 された適正化法が施行されました。その中では、「地方公 共団体によるマンション管理適正化の推進」が掲げられ、 ●マンション管理適正化推進計画の制定 ●管理適正化 のための指導・助言等 ●管理計画認定制度 などの措置を講じることが法制化されました。つまり、 自治体（行政）の役割として、『マンション管理適正化推 進計画の制定』では、市部は各市が、町部については県が、 マンション管理適正化推進計画（以下、推進計画という）</p>	<p>市 長</p>

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>策定すること、『管理適正化のための指導・助言等』では、管理の適正化のために必要に応じて、管理組合に対して指導・助言を行なうこと、『管理計画認定制度』については、適切な管理計画を有するマンションを認定することが求められています。</p> <p>県内自治体で推進計画をすでに策定しているところは、静岡市・浜松市・三島市・伊東市の4市です。推進計画の策定には期限は決められていませんが、各自治体においては順次策定される方向と聞いています。</p> <p>そこで以下伺います。</p> <p>① 市当局は、「マンション管理適正化推進計画」の策定および「管理計画認定制度」についてどのように考えているのか伺います。</p> <p>② 2020年1月、滋賀県野州市では、全国で初めて行政代執行による廃墟マンションの解体が税金を投入して行なわれました。今後、マンションの高経年化が進むことにより、「管理不全」となることが予測されるマンションが多く発生する可能性があります。</p> <p>「管理適正化のための指導・助言」の観点から、市当局は、こうした課題にどのように対処していかれるのか伺います。</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5年 5月 15日

伊豆市議会議員様

議席番号 10 議員名 間野 みどり

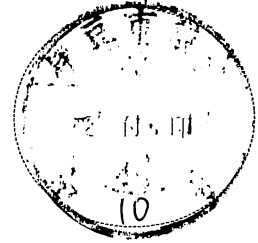
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括)・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
	発 言 の 要 旨	答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 保育士を取り巻く保育士の現状について	<p>全国的に少子化問題を抱えている市町村、それを少しでも打破するために子育て支援に対する施策が、伊豆市でも多く考えられています。</p> <p>その施策を充実に導くために、今、伊豆市の保育現場の現状を踏まえ、より詳しく一緒に考えていくよう、質問致します。</p> <p>まず、今の国の定める保育士の配置基準をまとめてみますと、0歳3人の園児に1人の保育士、1～2歳は6人に1人、3歳は20人に1人、4歳は30人に1人と、おおむね決められていることが、厚生労働省「児童福祉施設及び運営に関する基準 33条」にあります。</p> <p>基準は、上記のとおりですが、それに園長や主幹、主任そして支援員や調理員、看護師等、様々な職員が加わり運営されています。その限られた基準の職員の中、園のスタッフ配置では、大変なご苦勞をされていることが、現場経験の長い私は良くわかります。</p> <p>今、伊豆市では、子育て支援の一つとして、病児保育や病後児保育、そして土曜保育や休日・祝日保育等の様々なサービスが行われ、子育て環境が少しずつ充実しつつあります。</p> <p>また、国の方では、「だれでも通園制度」も始まると話題があがっています。</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>2. SDGs の教育現場の取り組みについて</p>	<p>その現状の今、保育士不足が問題にあがっている伊豆市では、今後様々な問題や課題にどのように向き合っていくのか、またどのように配慮していくのか、質問致します。</p> <p>① 保育士の職員数、勤務状況はどのように捉えていますか。</p> <p>② 保育現場において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な点は何だと思えますか。 ・支援園児の増加、園児の長時間保育の増加、土曜保育、休日・祝日保育、病児保育、病後児保育等様々な保育形態のサービスの開始等による、保育士の負担をどのように考えていますか。 ・8時間労働の保育士に対し、それよりも長く、園児は朝7時から夜7時まで等、園に長時間いることもあります。その子どもたちへの配慮は考えたことがありますか。 ・今、働き盛りの保育士も、小さな子どもを抱えて働いている保育士も多いです。その点はどのように考えていますか。 <p>本日は保育士に特化して質問しましたが、今後働きながら子育てする方、または親兄弟を介護しながら働く方も多くなっていくと思います。</p> <p>そこで、共通点も多い公務員に対して質問します。</p> <p>③ 前々から庁舎が遅くまで電気がついていると市民の方が言っています。</p> <p>本年度の予算にもあるアウトソーシング等改良の努力はわかりますが、今の現状の課題とその対応をどう考えているでしょうか。</p> <p>今年の1月20日、SDGsの研究をしている山中俊之氏のSDGsの研修に参加しました。</p> <p>SDGsの17の目標は、幼い頃から日常的に意識をすること</p>	<p>教育長</p>

件名	内容	答弁を求める者
	<p>とが大事と教えていただきました。</p> <p>今回は、SDGs（持続可能な開発目標）17の目標の中の教育に関係すると思われる2つの目標について質問します。</p> <p>① 目標4の「すべての人々に包摂的かつ公正で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」という点では、ドイツのベルテルスマン財団の達成度の調べでは、日本は達成されているとのデータが出ていますが、伊豆市ではどのように捉えていますか。</p> <p>② 目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児の能力強化を図る」についてのデータは達成には程遠いと出ていますが、それはどのように捉えていますか。</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5年 5月 15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 16 議員名 杉 山 誠

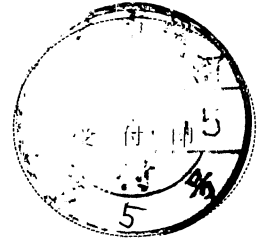
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1.不登校の児童生徒への支援	<p>文科省の調査では、2021年度の不登校の小中高生は約30万人で過去最多となり、特に小中学生は約24万5千人に上り、このうち約4万6千人は学校内外での相談支援などを受けておらずに不登校が長期化しているとのことです。子どもが不登校になる理由は様々で特定は難しいとされますが、近年の増加の背景について文科省は、コロナ過での生活環境の変化や学校生活の制限が交友関係などに影響したことで、登校意欲がわきにくくなった点を指摘しています。</p> <p>また一方で、2017年に施行された教育機会確保法に「休養の必要性」が明記され、無理やり登校させずに前向きな休養を促す指導が増えたことも影響しているとの考えもあります。</p> <p>元文科省視学官で不登校の子どもらへの支援に詳しい亀田徹氏は「大切なのは不登校の原因を探ることよりも、子どもの今のままと認めること。だからこそ、子どもに合わせた柔軟な学び方や学びの場を用意することが重要」と語っています。</p> <p>一方、不登校の子どもを育てる保護者への支援も喫緊の課題とされます。我が子が不登校になった責任を感じて自らを責めてしまうケースや、だれにも相談できずに孤立する場合があります。</p> <p>不登校の子どもが急増している事態を受け、文科省は不登校の総合対策「COCOLOプラン」を策定し、自治体や教育委員会に対し「今すぐできる取り組みから速やかに実行する」ことを求めています。</p>	

件名	内容	答弁を求める者
<p>2.デジタル技術で人命を守る「防災DX」の推進について</p>	<p>COCOLO プランでは、不登校の児童生徒すべての学びの場の確保、そして心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」での支援、さらに学校の雰囲気を見える化し、安心して学べる場所に、の三つの柱を掲げ、具体的な主な項目として</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 不登校特例校を全国300校に拡大 ② 教室に通いづらい子の居場所を校内に設ける「スペシャルサポートルーム」などの設置 ③ 学校外にある不登校の公的支援施設「教育支援センター」の機能強化 ④ 自宅学習などの成績評価への反映 ⑤ 相談窓口の整備など保護者への支援 ⑥ 一人一台端末を活用した子どもの健康観察などに取り組む、としています。 <p>不登校対策は待ったなしです。子どもたち一人ひとりに光を当て、誰一人置き去りにされない教育の実現に向けて、これまでも増して積極的な対応が必要と考えますが、当市の取り組みはいかがでしょうか。</p> <p>自然災害が激甚化・頻発化している中、防災分野で人工知能(AI)などの最新技術を活用したデジタルトランスフォーメーション(DX)を進める自治体が増えています。防災DXを進めることによるメリットとして、緊急情報の迅速な伝達により、被害を最小限に防げることや、被害状況の情報収集・伝達がスムーズになること、そして、罹災証明書発行など、住民サービスが均一化できることなどがあげられています。</p> <p>一方で課題としては、各自治体で防災情報システムの標準化ができていないことや、最先端技術の活用が遅れていること、システムの開発、維持管理に負担がかかる、DX人材や知識・技術の確保が難しいことなどがあるとされています。</p> <p>近年、自然災害が甚大になっている一方で、インフラの老朽化や職員の不足など、災害対応力の低下が懸念されています。災害対応にあたる職員の負担軽減と迅速な支援体制構築のためにも防災DXの推進は欠かせないと思いますが、現状と課題、今後の取り組みはいかがでしょうか。</p>	<p>市長</p>

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5年 5月 15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 2 議員名 浅田 藤 二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
	発 言 の 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1 自主避難所の 整備について	<p> 本年3月議会での施政方針には、危機管理について、「いかなる災害においても死者は出さない」という強い目標がかかげられました。目標達成のためには、避難しかない。一人でも多くの市民が、確実に避難するため、住民から近く、使い慣れている自主避難所を増やすことが効果的であり、市職員が安否確認や避難所の運営に当たっては、本来業務が滞る、つまり災害支援の生産性が低下してしまう。職員は可能な限り本来業務に集中することが望ましい姿だと述べられています。これは、2年連続で出され同じ言葉で避難所整備の重要性を示した施政方針です。 </p> <p> また、令和3年9月定例会におきまして、「避難所として利用できる公民館に、太陽光発電と蓄電設備を整備しておくことは、停電時の住民の不安を取り除くことができ、地域の防災拠点としての機能充実につながると考えます。公民館等への整備に当たり、補助金を交付できるよう予算確保と要綱等制定のお考えはないでしょうか。住むところの近くに避難所があれば、災害時の鉄則でもある早めの避難にもつながっていきます。お考えをお聞かせください」と質問させていただきました。 </p> <p> 職員が減少しアウトソーシング事業が提案され、運用されていく中で災害時避難所の運営については、住民自らが担っていかなければ緊急時の災害対応はたいへん難しくな </p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>2 新中学校の教育の内容(教育課程)について</p>	<p>ることが予想されます。</p> <p>だからこそ、住んでいる近くにある公民館などの自主避難所の整備は重要であると同時に急ぎ対応しなければならないのではないのでしょうか。</p> <p>質問します。</p> <p>①施政方針の「使い慣れている自主避難所を増やすことが効果的」へのこれからの取り組む具体的な施策(制度創設や予算確保)についてご説明ください。</p> <p>②自主避難所の整備には、地元区長や防災委員との話し合いを重ねると同時に、避難所運営について住民自らが担うための講習会や勉強会が必要になってくると思います。</p> <p>公民館など自主避難所整備という命を守るハード面と避難所運営という命をつなぐソフト面を、これから職員が減少していく環境をみすえながら同時に進めていかなければならないと思いますが、「いかなる災害においても死者は出さない。そのためには、避難しかない」の観点から、お考えをお聞かせください。</p> <p>令和4年12月議会で、持続可能な伊豆市とそれを支える人材づくりのための教育について、地域が先生であり、現場がテキスト。新中学校は、持続可能な伊豆市の将来を担う若者を育てる大きなチャンス。そのためには、地域に開かれた教育課程の編成のための学校と地域との連携の枠組み、システムを設置されること、また、決められたことを決められたように実行する正解がある仕事は、人工知能やロボットに任せる世界が見えてきています。そこでは、創造性・協調性が必要な職業のみが残っていくと考えられるため、主体性や創造力を育成し、自ら判断し主体的に問題解決できる若者を育てていかなければならないと提案させていただきました。</p>	<p>教育長</p>

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>学校と地域が協力しながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のせいにしない、自ら問題解決に挑戦する生徒。 ・違いを尊重し、地道な対話から合意形成ができる生徒。 <p>そんな子どもたちが育つ、環境をつくり出していきたいと考えます。</p> <p>質問します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①宿題廃止 ②中間テスト、期末テストの廃止 ③頭髪、服装の校則をなくす ④固定担任制の廃止 <p>この4点について、お考えをお聞かせください。</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和5年5月10日

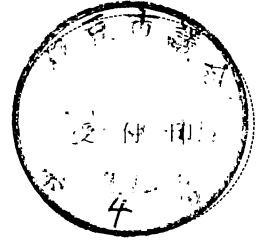
伊豆市議会議長 様

議席番号 12 議員名 小長谷順二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1.自治体 DX の 推進について	<p>令和2年12月、政府において「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」が決定され、目指すべきデジタル社会のビジョンとして「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」が示されました。</p> <p>そして令和4年6月に「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が閣議決定され、目指すべきデジタル社会のビジョンとして改めて位置づけられました。</p> <p>このビジョンの実現のためには、住民に身近な行政を担う自治体、とりわけ市区町村の役割は極めて重要です。</p> <p>DX とはデジタル技術の特性を活用することで考え方や業務プロセスを根本から変えることを指していると聞いています。</p> <p>人口減少社会では職員を募集しても集まらない時代になります。しかし人手不足だからといって公的なサービスを止めるわけにはいきません。人口減少社会でも持続可能な自治体の改革は待ったなしです。</p> <p>3月定例会の市長の施政方針は「生産性革命に」徹したいとの事でした。市職員においても、行政事務をより効果的・効率的なやり方に改善し、職員が企画した事業の成果を実感できれば職員の士気が向上しその雰囲気は市民にも伝わり好循環につながると断言しています。そのためにもDXを推進し、人材の育成と組織体制の構築を図るべきと考えます。そこで国が示す重点事項</p>	市 長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
2.子ども・子育て支援の推進について	<p>・デジタル社会の実現に向けた取り組み事項について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自治体の情報システムの標準化・共通化 ② マイナンバーカードの普及促進 ③ 行政手続のオンライン化 ④ AI・RPAの利用推進 ⑤ テレワークの推進 ⑥ セキュリティ対策の徹底 ⑦ デジタル人材の確保及び育成について ⑧ デジタル田園都市国家構想の実現に向けたデジタル実装の取組の推進・地域社会のデジタル化 ⑨ デジタルデバイド対策 ⑩ デジタル原則に基づく条例等の規制の点検・見直し <p>本年4月にこども家庭庁が発足しました。こども家庭庁の理念は、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組み・政策を我が国社会の真ん中に据えて「こどもまんなか社会」、こどもの視点で、こどもを取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもの権利を保障し、こどもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しすることです。</p> <p>国ではこれまで、こどもの貧困対策については内閣府、児童虐待防止は厚労省といったふうに、こどもの政策はいわゆる縦割りになっている現状を、こども家庭庁に一元化し複数の課題を持っているこどもや子育て世代に対して一体的な支援を行うことが出来るようになります。伊豆市においても「こどもまんなか社会の実現」に向けて率先して実施していただきたいと思い以下の質問をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① こども家庭庁設置についての本市の受け止め方 ② こども家庭庁との連携と機構改革 ③ 縦割りの解消と業務の一元化に向けた取り組み ④ こどもの意見の反映と居場所づくり ⑤ 第2期 伊豆市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況 	市 長 教育長



発 言 通 告 書

下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5年 5月 10日

伊豆市議会議長 様

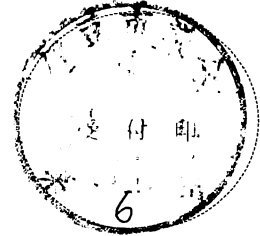
議席番号 5 議員名 黒須 淳美

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()				
発 言 の 要 旨					
件 名	答 弁 を 求 め る 者				
地域づくり協議会 の検証と今後の方 向性について	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; padding: 5px;"> 内容 </td> <td style="width: 40%; padding: 5px;"> 市長 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p> 遡ること14年前の平成21年、伊豆市において人口減少危機宣言が発令され地域の活力低下が懸念される中、危機感を持った市職員によるプロジェクトチームが立ち上がったことが、この地域づくり協議会設立につながったと聞いています。</p> <p> 設立に当たっては、平成16年の合併した時点での小学校区単位が相当であるとされ、それから5年後の平成26年7月に第1号となる地域づくり協議会が湯ヶ島地区にて立ち上がり今年で9年が経過したところです。</p> <p> その間、現在に至るまでに9つの学区で既に設立され市内13学区の内残るは4学区という状況になっています。</p> <p> その4学区も3つの地域において勉強会を開催するなどの動きが見られ、この数年内には何らかの結果がでるのではと考えられます。</p> <p> 私の住む南小学区においても昨年10月から2回の勉強会を経て、この4月には(仮)設立準備会と名称も変わり設立に向けての一步を踏み出したところです。</p> <p> そんな中から浮彫になってくるのは、やはり一つの小学校区といっても範囲が広い南小学区において、それぞれが抱える課題やニーズなどの違いが高いハードルとなっていることです。</p> </td> </tr> </table>	内容	市長	<p> 遡ること14年前の平成21年、伊豆市において人口減少危機宣言が発令され地域の活力低下が懸念される中、危機感を持った市職員によるプロジェクトチームが立ち上がったことが、この地域づくり協議会設立につながったと聞いています。</p> <p> 設立に当たっては、平成16年の合併した時点での小学校区単位が相当であるとされ、それから5年後の平成26年7月に第1号となる地域づくり協議会が湯ヶ島地区にて立ち上がり今年で9年が経過したところです。</p> <p> その間、現在に至るまでに9つの学区で既に設立され市内13学区の内残るは4学区という状況になっています。</p> <p> その4学区も3つの地域において勉強会を開催するなどの動きが見られ、この数年内には何らかの結果がでるのではと考えられます。</p> <p> 私の住む南小学区においても昨年10月から2回の勉強会を経て、この4月には(仮)設立準備会と名称も変わり設立に向けての一步を踏み出したところです。</p> <p> そんな中から浮彫になってくるのは、やはり一つの小学校区といっても範囲が広い南小学区において、それぞれが抱える課題やニーズなどの違いが高いハードルとなっていることです。</p>	
内容	市長				
<p> 遡ること14年前の平成21年、伊豆市において人口減少危機宣言が発令され地域の活力低下が懸念される中、危機感を持った市職員によるプロジェクトチームが立ち上がったことが、この地域づくり協議会設立につながったと聞いています。</p> <p> 設立に当たっては、平成16年の合併した時点での小学校区単位が相当であるとされ、それから5年後の平成26年7月に第1号となる地域づくり協議会が湯ヶ島地区にて立ち上がり今年で9年が経過したところです。</p> <p> その間、現在に至るまでに9つの学区で既に設立され市内13学区の内残るは4学区という状況になっています。</p> <p> その4学区も3つの地域において勉強会を開催するなどの動きが見られ、この数年内には何らかの結果がでるのではと考えられます。</p> <p> 私の住む南小学区においても昨年10月から2回の勉強会を経て、この4月には(仮)設立準備会と名称も変わり設立に向けての一步を踏み出したところです。</p> <p> そんな中から浮彫になってくるのは、やはり一つの小学校区といっても範囲が広い南小学区において、それぞれが抱える課題やニーズなどの違いが高いハードルとなっていることです。</p>					

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>また、区の役員の負担軽減が叫ばれる中、人材確保の問題、交付金が規模の違いに関わらず一律であることなど様々な点で見直しが必要ではないかという住民の声があるのも実情です。</p> <p>地域づくり協議会が今なぜ必要とされるのかについての更なる議論が求められる時期ではないでしょうか。</p> <p>来年市政 20 周年を迎える伊豆市ですが、少子化緊急対策が重点事業の一番目に掲げられてスタートした今年度は、正に行政主導ではなく市民が自ら考え行動していけるような環境を整えていくべき時ではないかと考えます。</p> <p>そのためにも地域づくり協議会について、ここで改めて検証し見直しを含めた改善策など検討していただけたらと思います。</p> <p>以下について伺います。</p> <p>① 地域づくり協議会の運営について現状をどのように評価しているか。</p> <p>② この 9 年間の実績についての問題点や課題は。</p> <p>③ 残る 4 つの小学校区における設立について、どのようなことが問題となっていると認識しているか。</p> <p>④ 小学校区の括りの見直しは考えられるか。</p> <p>⑤ 各小学校区一律の交付金額についての見直しはあるか。</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5年 5月 15日

伊豆市議会議長 様

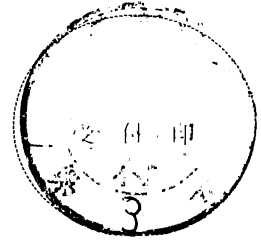
議席番号 4

議員名 飯田 大

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① <u>一般質問通告</u> (<u>一括</u> ・ 分割) ※発言予定時間 (<u>20分</u> ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	答 弁 を 求 め る 者
市内こども園、小中学校の給食について(子育て世代が給食に期待する事項)	市長 教育長
<p>異次元ともいわれる少子化が進み中、少子化対策の一環として。給食関連では、従来父兄の負担している給食費を無償にするための学校給食法改正案が取りざたされています。</p> <p>伊豆市では第2次伊豆伊総合計画基本構想後期基本計画策定に掲げている子供が健やかに学び育つ教育環境の整備が最優先事業の一つとあります。</p> <p>少子化対策の次代を担う人材育成の観点から、子育て世代の父兄が市内こども園、小中学校の給食に託す心身の成長と栄養教育には大きな期待を持っています。また多忙な保護者の負担の軽減を計る今後の給食の在り方など、市内こども園、小中学校の給食について以下のとおり質問いたします。</p> <p>① 市内における給食の運営と給食日数、給食数について</p> <p>② 小中学校の給食に係る経費(1人1食当たり)について</p> <p>③ 父兄の給食に対する意見、感想を把握していますか。</p> <p>④ 賄食材の地産地消への取り組みの状況について</p> <p>⑤ 栄養教諭または栄養士の園児、児童、生徒への食育、指導状況について</p> <p>⑥ 放課後児童クラブでの昼食の衛生管理は保たれていますか</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 5 年 5 月 15 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 1 議員名 小川 多美子

No. 1

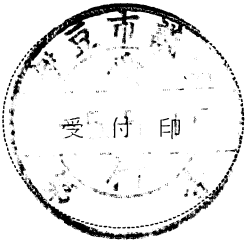
発言の種別 (○で囲む)	① 一般質問 (一括・ 分割) ※発言予定時間 (20分・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	答 弁 を 求 め る 者
1. 小さな背中に 重いランドセル！	教育長
<p> 新年度を迎え、ピカピカのランドセルを背負った小学一年生が元気に登校をする姿が見られます。 このランドセル、2022年の平均価格は56,425円だということで決して安価な物ではありません。購入の55%は祖父母からのプレゼントだといわれています。 例年4～5月には最新モデルが発表され6月頃から先行予約が始まるとのことで、可愛い我が子のため、孫のためについ商戦に乘せられてしまうのではと思います。このような状況を『ラン活』と呼んでいるようです。 小さな体に大きなランドセル、見た目にはとても可愛く微笑ましい姿ですがかなりの重さがあります。ランドセルの重さは体重の15%程度が良いといわれていますので、小学低・中学年では2～3キロが適当だということです。重いといわれているランドセルの平均は5.7キロもあるようです。とはいえ1年生入学から6年生卒業まで6年間使う物ですから適した重さというのは難しいものです。 しかし重いランドセルは、成長期に悪影響があり、腰痛の子どもが増えているのではないかともしわれています。 そこで、次のことを伺います。 ① 重くて腰が痛い、重くて転んだ或は転びそうになったなどの話は聞きませんか。 </p>	

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
2.放課後児童クラブ について	<p>② ランドセルの重さに加えて体操着などがはいたサブバック、水筒、更に雨の日には傘を差す等相当の重さが掛かります。</p> <p>家に持ち帰る必要のないものもあるのではと思いますが、学校に置いておくことはできませんか。</p> <p>③ 中学生になるとカバンも変わってきます。現在使っている中学生のカバンの重さはどれくらいでしょうか、値段もどれくらいでしょうか。</p> <p>市内各小学校にある放課後児童クラブ、子どもが家に帰ったときに自分で鍵を開けて誰もいない家に入らなければならない鍵っ子と呼ばれる子どもたちや、保護者にとってはとてもありがたい場だと思います。</p> <p>学校によって受け入れ人数に偏りがあるようです。申し込みをしたけれど入れないという声を耳にしますが 次のことを伺います。</p> <p>① 市内7校8クラブの入所希望者、受け入れ人数を教えてください。</p> <p>② 受け入れに対する審査基準はどのようになっていますか。</p> <p>③ 殆どのクラブで定員割れですが、修善寺南小の子どもたちが利用する2つのクラブでは定員を大幅に上回っているようです。空き教室など利用して定員を増やすことは出来ないでしょうか。</p> <p>④ 夏休みは毎日のように、朝から1日中一人でお留守番という子どももいると聞きます。せめて夏休みの間だけでも、という切実な声も耳にしますがなんとかならないでしょうか。</p>	教育長

件名	内容	答弁を 求める者
3.オーラルフレイル (口の健康)について	<p>オーラルフレイルとは歯や口の機能が衰えた状態のことをいい、話がしにくい、飲み込みにくい、むせる、こぼす、噛む力が低下するなど舌を含めた口の周りの筋肉の衰えで起こるといわれています。フレイルとは健康な状態から要介護状態の間にある時期だといわれ、加齢に伴い筋力や心身の活力が低下してきている虚弱状態のことで、オーラルフレイルとは口の虚弱の状態のことをいいます。</p> <p>予防するには歯と口の健康を保つことが大切で、具体的には、口の中を清潔に保つこと・加齢で衰える口腔機能の維持改善に努めることが大事だということです。</p> <p>これらは子どもの頃から歯を健康に保つための予防が必要だと思われます。</p> <p>日本人は長寿の割に歯の寿命が短いといわれ、8020、80歳で20本の歯を保てるようにといわれていますが、現実には80歳で平均13.9本、20本以上の歯を保っている人の割合は38.3%だということです。</p> <p>歯を失う最大の原因は歯周病で、歯周病が原因で全身の様々な病気と関わってくることもあります。</p> <p>オーラルフレイルを防ぐために次のことを伺います。</p> <p>① 子どもの頃から歯を健康に保つための予防が必要と思います。小さいときからの歯の健康についてどのように考えどんな指導、周知をしていますか。また、フッ素の塗布は何歳くらいまでが適当でしょうか。</p> <p>② オーラルフレイルの原因となる歯周病が原因で起こる様々な病気にはどんな病気があるでしょうか。また予防のためにはどんな注意が必要でしょうか。</p> <p>③ 伊豆市では『健口教室』を実施しているようですが、あまり知られていません。オーラルフレイルになる前に、口腔機能の低下予防のためにも、講座の受講は必要ではないでしょうか。余病が出る前の予防です。対</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>象となる年齢の方には是非検診を勧めては如何でしょうか。特に男性の受診者が少ないと思います。市長を始め男性の皆さん方、折角の受診機会を逃さずにオーラルフレイルにならないためにも受診されたらと思います。</p>	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

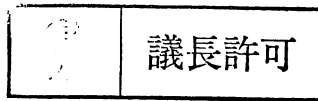
令和 5年 5月 15日

伊豆市議会議長 様

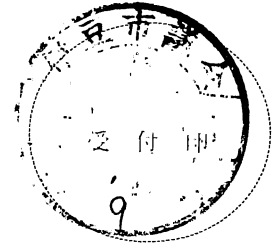
議席番号 14 議員名 三田 忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① 一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20分 ・ 30分) ② 質疑 ③ 討論 (反対 ・ 賛成) ④ その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	答 弁 を 求 め る 者
伊豆市の介護・福祉・医療は持続可能な現状ですか	所属する教育厚生委員会所管事務調査を市内の介護福祉施設を中心に行いました。現場の状況、職員の生の声を確認し、市政に反映されるよう議会活動を行う目的です。いくつかの知見を得ましたので以下質問致します。 ① 各アンケート調査や日頃の行政事務から、伊豆市の現状は市民の需要に応えられているレベルでしょうか ② 介護福祉施設分野では、人材不足を訴えていましたが、他の分野での現状把握はいかがでしょうか ③ 人材確保面に対する行政施策を教示してください ④ こども園等幼児への、さらに義務教育等学校での福祉教育の現状の取り組み状況は、課題となることは何か ⑤ 人材確保のための、介護職員初任者研修を行政主管で開催しませんか、または受講者に助成しませんか ⑥ 高校、短大、専門学校、大学等で学ぶ医療・介護・福祉分野の生徒・学生の奨学金を創設しませんか ⑦ 人材不足のため、外国人労働者の採用が進んでいますが、受け入れや暮らしの支援の行政の施策の現状と課題についてはいかがですか ⑧ 地域共生社会実現に向けた、包括的支援体制、包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業の現状と今後取り組み方針を伺います。
市長 教育長	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和5年5月15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 6番 議員名 下山 祥二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① 一般質問 (<u>一括</u> ・分割) ※発言予定時間 (<u>20分</u>) ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
1. 市民の安全 安心を担保する 行政の役割	<p>市民の安全安心を現在と将来に向けて守り、日常的に生き生きと暮らし将来に向けて豊かさを追求するまちづくりは、行政の最大責務だと思います。昨今では、事件とは縁が無い地方においても特殊詐欺をはじめ、凶悪な事件が連日報道され、「今までこんな恐ろしい事件は一度も無かったので驚いている」という事件直後のメディアに対する近隣住民のインタビューを耳にすることがあります。また自然災害の被災地では「生まれてから80年ここに住み続けているが、こんな雨量(積雪量)ははじめて経験した」というコメントも聞きます。さらに交通事故など市民生活を取巻く環境は常に危険と隣り合わせです。全てのリスク回避は無理でしょうが、可能な限り危険を予知し、行政は市民の生命財産を守る役割を果たすべきだと思っています。そこで市民を守るリスクヘッジについて以下の質問をします。</p> <p>① 平和寺敷地内に残存する廃棄物混じりの土砂は、3年前の状態から現在はどうなっていると把握しているか、お聞きします。</p> <p>② 伊豆市が提訴した宗教法人平和寺本山外に対する訴訟の判決は、おおむね伊豆市の主張が認められた判決と思われ、一つの区切りがついて安堵している。なお平和寺敷地内に残された廃棄物混じりの土砂の除去については、県等と連携しつつ適切に対応していきたい。という記者会見の市長コメントがありました。その後どのような進展があったのか伺います。</p>
	答 弁 を 求める者
	市 長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>③ 今年も、もうすぐ梅雨入りです。そしてその後はゲリラ豪雨や台風など自然災害が発生しやすい季節が到来します。さらに大地震と連動すると、平和寺敷地内の廃棄物混じりの土砂が一気に流失し、大規模土石流となって甚大な被害をもたらすことも想定しなければなりません。その抜本的な対策についてどのように考えているか伺います。</p> <p>④ 市民の日常生活においては、生命や財産を侵すリスクは多種多様に潜んでいます。以下のリスクに対し、現在の具体的な取り組みについて伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物などの鳥獣被害対策 ・行方不明者（登山者、認知症患者など）の捜索活動 ・通学時の交通安全や不審者に対する防犯活動 ・今後の不適切な盛土の早期発見パトロールなど 	